

人の命に寄り添って

「人殺し！あんたを絶対に許さないからね。」突然我が子を奪われた母親の悲痛な叫びが私の心の中で共鳴して止まることはありません。

今年5月。神奈川県川崎市の私立カリタス小学校。スクールバスを待っていた約20名の児童らを襲った通り魔殺傷事件。無職の中年男性によって、女子児童1名と男性保護者1名が尊い命を奪われました。犯人は、殺害した後に自らの首を切って命を絶ちました。

私はこの報道を知ったとき、やり場のない怒りと悲しみで涙が止まりませんでした。人を殺して自分も死ぬ。それは決して許されることではありません。しかし、このような痛ましい事件は昔から後を絶ちません。

人が人としてこの世に生まれてくることのできる確率は、約700兆分の1と言われていきます。私たちは、気が遠くなりそうな奇跡的な確率を超えて生まれてくるのです。そして、たくさんの思い出を作り、たくさんの人と出会い、たくさんを学んでいきます。楽しむことを知り、喜ぶことを知り、悲しみを知り、誰かに愛される喜びを知り、誰かを愛する意味を知り、そして、共に生きていきたい人と結ばれて幸せになります。全ての人が幸せに生きる権利を持っているのに、その大切な命を奪う資格など誰にもありません。そう、神様にすらないのです。

殺人は、殺したいという明確な意志を持って行われる犯罪ですが、私たちの身の回りにも、殺すつもりはなくても人を死に追いやりかねない危険性が潜んでいます。それは、いじめです。陰湿ないじめによって、追い詰められた子どもが、自分の命と引換えに苦しみから逃げようとする。そんな悲しい事件もあります。

実は、私の左腕には自傷行為をしていた頃の傷跡が残っています。死のうと思ったことは一度もありませんが、死にたいと思ったことは何度もあるのです。ひどい嫌がらせをされ、悪口や陰口を言われ、無視をされ続けた結果、心が風邪を引いてしまったのです。夏なのに長袖を着ていた私に気付いてくれた親が「お前の体は世界で一番大切なのだから」と言ってくれて立ち直れたのですが、そんな私だから死を選択する人の気持ちが痛いほど分かります。

誰かの命を一瞬にして消してしまう心ない言動。冗談で言っただけ？からかってみただけ？悪ふざけでやっただけ？ただの遊び？冗談じゃない。そんなちっぽけなことで大切な命をうばわれてたまるものですか。

私は、意地でも死んだりなんかしませんが、今日もこの国のどこかで私たちと同じ若者がいじめに悩み苦しみ、死を選ぼうとしています。それが現実です。

その人の手の届くところに私がいたら、その人に寄り添ってあげたい。誰が悪い、誰がかわいそう、そんなの正解なんてありません。人の気持ちの問題です。苦しむ人の心の痛みを分かってあげたい。寄り添って全力で支えてあげたい。心からそう思います。戦争もテロも殺人も、そして、いじめによって死に迫りやることも、掛替えのない命を奪うことに少しも変わりはないのですから。